

思いがけずアスレチック登山 西穂独標・西穂高岳（個人山行）

（報告）TM

◎期日：2022年10月2日（日）～3日（月）

◎メンバー：TM（PL）、FJ（SL）、KM

予定通りだったら10/1～3の土日月で、南アルプス南部の悪沢岳・赤石岳に行っていたはずだった。しかし9/24に通過した台風15号が静岡を直撃。嫌な予感。この地域の登山口に至る林道は地質がもろく、大雨のたびにどこか崩れるという。案の定、畑薙の駐車場から榎島登山口への林道も相当被害が出たらしく、予約していた送迎バスは10/10まで運休となった。それがわかったのが9/28。

さあ、どうしよう。代替プランがない。でも、せっかく有休をとって三連休にしたし、この週末の天気は久しぶりに良い予報。メンバーから募った案の中に、FJさんの「西穂独標～西穂高岳にもいつか行きたい」の一言があった。寒くなる前のアルプス登山は今が最後のチャンス。どんなところか知らずに「いいですね」と返信して、後から調べてびっくり仰天。なんだかとても危なそうな所じゃないですか。怖気づいたところ、「大丈夫、楽しめると思う」とKMさんに励まされて、そうだ、どうしても行けそうにないと思ったら、座って待ってればいいじゃないか、と気楽に考えることにした。

土曜の西穂山荘は満員御礼、日曜月曜の2日間で出かけることにした。1泊2食付き13,500円。この3年間のコロナの影響で仕方ないとはいえ、高い。今はこれくらいが相場のようなのだ。

日曜朝7時に集合、FJさんの車で出発。グーグルマップでは、登山口に通ずる新穂高ロープウェイの鍋平高原駐車場まで4時間。風前には着くと読んでいたが、飛騨は遠かった。予定より1時間半遅れて到着、準備後、ロープウェイに乗る。後方にきれいな笠ヶ岳、右に大きな噴火口を見せる焼岳、そして左前方にこれから行く西穂高岳までの稜線が見える。空は青。雲はほとんどない。天気が良いと、心も晴れる。



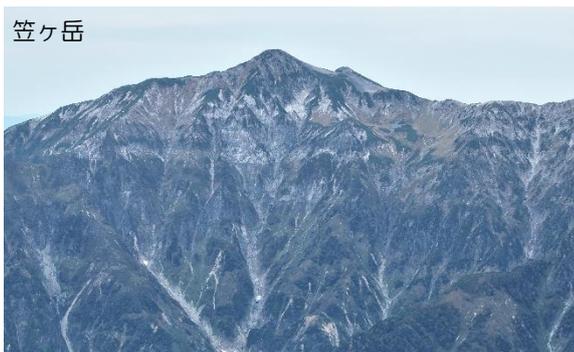
展望台から西穂高岳と西穂独標

西穂高口駅の展望台で改めて景色を愛でてから、歩き始めた。今日は西穂山荘到着が目的である。日曜午後とあって下山者が多い。てくてく歩いてさくっと到着。大きくてきれいな山荘だ。さすが北アルプス。チェックイン後、岐阜県警のヘリコプターが来て、登山者を一人吊り上げて行った。何があったかわからないが、こうしたことも起きうる場所なんだと、少し気が引き締まる。

部屋に荷物を置いて、前庭で前夜祭。夕食時に、小屋のご主人から翌日の天気の説明があった。西穂山荘のご主人と言えば、登山業界では有名な気象予報士。確かな情報をもらえ、有り難いサービスだ。

2日目。昨日より雲が多いが、午前中は晴れの予報。5時起床、6時出発目標、実質6時半、という前夜のシナリオ通りにスタートした。まずは独標が目標だ。山肌をむき出しにした背後の焼岳が大きな口を開けて背中を押してくれる。横縞のきれいな笠ヶ岳に日が当たり始めた。

笠ヶ岳



すぐに山小屋の赤い屋根を見下ろすようになり、右側に明神岳のごつごつした稜線や、カッコいい前穂高岳が見えてくる。手前の斜面の木々は少し色づいてきたようだ。

やがて丸山到着。この辺りまではなだらかで、普段登山をしない人も来るようだ。少し先でミネカエデが一等先に紅葉し、オレンジ色に輝いていた。土の道から石ゴ

ロゴロに整地された登山道に変わり、北アルプスだなあ、と思う。

高度を上げると、笠ヶ岳に連なる稜線の向こうに大きなカーブを抱える山が見えてきた。黒部五郎岳だ。今年、行こうかどうか検討したが、結局行かなかった。ゴロー、いつか行きますぜ。

独標のてっぺんに人がいるのが見え、いよいよ岩山の上り下りが始まる。ヘルメットを装着。独標手前の登りは殆ど垂直に思える。両手も使って三点確保。焦らず確実に行こう。



真っ先に秋の色、ミネカエデ

8時前に独標到着、2701m。ほぼ同じスピードで進んでいた他のグループと写真を取り合う。西穂高岳からは峰に番号がついていて、独標は11峰。小さなピークを越えるごとに、カウントダウン式に数字が小さくなる。ここから先が険しいと書かれていたルートだ。でも怖くない。行けそうだ。

KMさんを先頭に、手足を使って登ったり下ったり。アスレチックコースというかジャングルジムというか、遊んでいる感覚でだんだん楽しくなってきた。30分ほどでピラミッドピーク(8峰)に到着。山頂や前穂高岳がぐっと近くなって、風景に迫力がでてきた。この辺りまで来ると、上りと下りが入り混じって人が多い。関西アクセントが聞こえるのも北アルプスの楽しいところ。



西穂高岳山頂と前穂高方面

南東方向に、遠く富士山と南アルプスのシルエットが見える。ホントだったら、あちらにいたのにね、と不思議な気分。

更に上ったり下ったりを繰り返して、チャンピオンピーク(4峰)を通過、ここは巻く。「2」と大きくペイントされた岩も通過。あと一つだ。

9時半頃、西穂高岳山頂に到着。2909m。写真を撮りながら大休止。眺望は360度。御嶽、乗鞍、白山、槍。正面には奥穂高岳が大きく聳えている。地図によれば6時間半もかかるが、殆ど目の前

西穂高岳山頂から。槍ヶ岳方面



である。手前にはジャンダルム。わずか 2km 先。去年、薬師岳に行った時にすれ違ったガイドさんが、室堂からスゴ乗越、薬師を歩けたならジャンも行けると言ってくれた、あのジャンダルムであるが、近くに来たという実感がない。というのは、西穂に来たのも殆ど直前に決めたことであって、奥穂の近くに行くんだ、ジャンダルムが見られるんだという認識が全くなかったからである。不遜にも、あ、来ちゃった、という感じ。

雲が厚くなってきた。南東方向に怪しげな雨雲が見える。下山開始。小屋までピストンで戻る。見下ろせば、来た道はまるでゴジラの背中。実際には殆ど巻いているのだが迫力がある。

山頂直下の下りはどこに足を置いていいのかわからず、助けを求めて教えてもらう。そのあとは自分で判断できたが、まだまだ未熟者です。独標を過ぎてホッとしたりと、朝より紅葉が進んだかも、と話したりしながら、のんびり下った。あと 1 週間もすれば、美しい風景になるだろう。



もう少しで見頃

12 時半頃、山荘に到着。荷物を整理して、名物西穂ラーメンで昼食とした。その後山荘を後にし、ロープウェイで下山。近くの足湯でほっこりしたので、温泉はやめて帰り道を急ぐことにする。ちょうどポツポツと雨粒が落ちてきて、ぎりぎりセーフで駐車場を後にしたのだった。

振り返れば、よくぞこんな遠くまで気軽に来たものだ。これも台風にも阻まれ、直前に大した下調べもなく方向転換したおかげ。瓢箪から駒、みたいな楽しい秋の岩稜登山となった。

《コースタイム》

10/2 (日) しらかば平駅 (13:45) = ロープウェイ = 西穂高口駅 (13:55~14:01) ~ 西穂山荘 (15:15)

10/3 (月) 西穂山荘 (6:25) ~ 独標 (7:55~8:03) ~ ピラミッドピーク (8:32) ~ 西穂山頂 (9:29~10:00) ~ ピラミッドピーク (10:46) ~ 独標 (11:15) ~ 丸山 (12:03) ~ 西穂山荘 (12:25~13:25) ~ 西穂高口駅 (14:25~45) = ロープウェイ = しらかば平駅 (14:55)

(終)